

● シリーズ 私の見た日本 Vol.185

## 日本に来て考えたこと

郭 尚儀 (カク ショウギ)

中国重慶市出身。  
2020年奈良女子大学生活環境学部住環境学科卒業。同年、同大学大学院に進学。建築デザインの勉強をしている。

初めて日本に来たのは、高校2年生の夏休みです。日本語を勉強し始めたばかりの私は、下手な日本語をしゃべりながら旅行をしていました。日本のすべてが新鮮で、日本らしい写真をたくさん撮りました。今から見ればごく普通の街並みですが、そのときは、「これこそ日本だな」と思っていました。日本を旅行しているときに非日常感を感じていて、それはなぜか、どうしてここは故郷とは違う町だと感じるのかと考え始めました。私の故郷である重慶はとても独特な地形をしており、山の上に建てられた町とも言えるでしょう。平坦な日本の都市と対比すると明らかな違いが感じられます。起伏の激しい地形が特徴の重慶を歩くと、常に坂道を上ったり下ったりします。そのうえ、オフィスビルだけではなく、建物全般が高層化しており、住宅街でもスカイラインが高く、建築の規模も基本的に日本より大きいです。それに対して、日本の街並みには10階以下の建築が大半を占め、少し高い建物に上ると遠くの景色が見渡せます。路面を走る電車、細い歩道、電柱と一戸建ての家はそのときの私が感じた日本らしさでした。

日本に留学に来たのは、2015年です。中国の高校を卒業した私は、京都の日本語学校に通っていました。その日本語学校は伏見区にあり、周囲には低い住宅しかなく、人も少なく、田舎だと思っていたのですが、一人暮らしの部屋の狭さに驚きました。日本の住宅は、天井高が低いイメージがあります。中国の住宅の床には基本的に木材か石材が使われていますが、日本の床はそれより少し柔らかな素材が使われています。どこに行っても使われているのは似たような壁紙で、似たようなキッチンとバスルームがあります。部屋に個性を感じられないのは賃貸マンションだからでしょうか。中国には賃貸のために建てられた住宅は少なく、部屋を借りると家主のセンスや個人的な趣味がすぐにわかります。日本の住宅は棟ごとに違うデザインですが、中国では同じデベロッパが広い土地に似たようなデザインのマンションを何十棟も建てます。配置は日本の団地と似たような考え方ですが、出入り口が設けられていて、それ以外のところにはしっかりと塀があり、縄張り意識が設計が

強く感じられます。中国では一生賃貸に住む人は一部のみに限られていますが、日本にはマイホームを持っていない人がたくさんいます。中国には独自の戸籍制度があるため、マイホームを持つことは結婚するうえでの必要条件とも言えますが、今中国の都会には一人暮らしをしている若者が増え続けています。しかし、単身世帯向けの住宅は少なく、広い部屋をルームシェアして暮らす人が多く存在しています。私も日本語学校の寮から出た後、友だちとルームシェアをしていました。一人暮らしではなく、ルームシェア生活を選んだ理由は安い家賃で広い面積が使えるうえに、海外での一人暮らし生活があまりにも寂しかったからです。シェアハウスでは、友だちと一緒にご飯をつくらったり出かけたりして、家族のように生活していました。私の部屋は和室で、友だちの部屋は洋室でした。畳の上に布団を敷いて寝るのはとても不思議な体験で、ベッドより少し硬いけれど、朝目覚めたときに天井がいつもより遠くに見えて、地面に近い安心感があります。床座の生活は空間の自由度が高く、素足でくつろげる一方、い

す座より視線が低く、併存するには違和感があります。もう一つ違いを感じたのは、トイレとバスルームです。中国の人はあまりお風呂に入る習慣がなく、シャワーだけで済ませます。トイレとお風呂が2つの部屋に分けられているのを日本に来て初めて見ました。中国ではトイレが広く、トイレ内にガラスで囲ったシャワースペースがある乾湿分離タイプが一般的です。トイレの壁と床の素材には基本的にセラミックタイルが用いられ、日本のプラスチック製のユニットバスとは全く違う雰囲気です。さらに、キッチンからも文化の違いが見てとれます。日本ではキッチンがダイニングやリビングと同じ空間にあることは一般的ですが、中国では必ず分けます。中華料理は匂いがきつく、煙が出るため、キッチンを独立した部屋にしないと家中が匂ってしまうからです。また、日本では一般的に玄関から室内に上がる際に20cm程度の段差がありますが、中国では基本的に同じレベルです。日本の住宅では土足とスリッパの境界線がはっきりしていますが、中国ではその線が曖昧です。リビングルームなどには土足で入り、

寝室に入るときにスリッパに履き替える人が少なくありません。日本と中国の住生活にはあらゆる角度から違いが見られます。私が通っていた日本語学校では、スリッパに履き替えて授業を受けていました。最初は履き替えるのが面倒くさくて、わざわざ履き替える必要があるのかと疑問に思っていたのですが、慣れたらスリッパで授業を受けるのは落ちつく気がしてきました。日本の人は高校まで学校内に入る際には靴を履き替えていたからでしょうか、大学でも授業を受けるときに靴を脱いだり、足をいすの上に上げたりする人がたまにいます。中国ではそれはとても失礼な行為だとされていますが、日本人はそのような光景を見慣れているのかもしれませんが、なぜスリッパに履き替えないといけないのかと先生に尋ねると、先生は学校内の環境を清潔に保つためだとおっしゃいました。確かに、日本語学校の床はとてもきれいな印象があります。教室が2列に並んでいて、真ん中に大階段と交流スペースが配置され、すべてが室内空間です。日本の高校などは廊下が室内空間だからスリッパに履き替えることができ、

清潔な環境を保つことができるのでしょう。それに対して中国の学校は、一般的に廊下が半屋外空間になっているため、スリッパに履き替えて授業を受けることができません。それに加え、中国では毎日授業と授業の間にグラウンドでラジオ体操をする習慣があるので、スリッパに履き替えるのは効率が悪いと言えます。

今年日本に来て6年目になります。以前は見慣れなかったものも、徐々に慣れてきましたが、日本の友だちと話すときや設計課題などを考えるときには、やはり文化の違いを感じます。日本の皆さんの常識は外国人の私の常識ではありません。日本に留学に来て、これまでとは違う視点から世界を見直すことができたような気がしています。



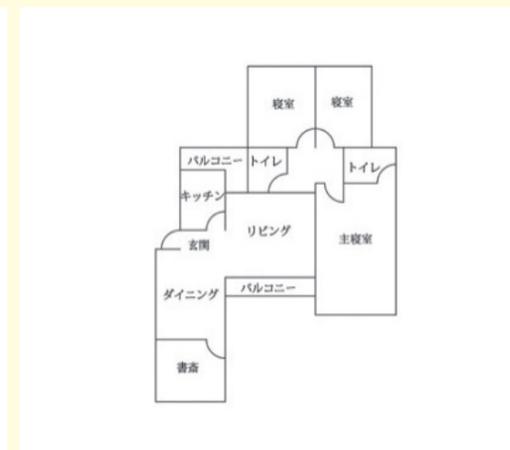
日本らしいと思った街並み



日本語学校の廊下



ルームシェアしていた部屋(京都)



実家の平面図(中国・重慶)